

M.K. 2017年卒 地域マネジメントコース

こんな学生時代を過ごしました

1～2年生は猪倉実習での活動に明け暮れる毎日でした。地域の方々と一緒に野菜を育てたり地域行事を行ったりするなかで、地域と学生の距離感や関係性のバランスの在り方を考えながら先輩後輩とみんなで試行錯誤していたのを覚えています。

3年生からは学外でのボランティア活動に注力させて頂き、その団体でチャレンジプログラムの長期インターンもさせて頂きました。学外での活動は、実習で学んだことを実践する場にもなり、自分の足りない部分を知ることが出来ました。

4年生の時は、自分が何をしたいのか、どんな仕事に向いているのか分からず、就職活動をしませんでした。その代わりに夏休みに初の海外旅行でケニアに行ったり国内の行きたかったところを旅しました。結果として何か見つかったわけではありませんでしたが、この時の経験が今でも「何とかなる」と思える1つの根拠となっている気がします。

その他にも、演劇研究会に所属し公演を行ったりアルバイトで居酒屋やホテルに勤務したり、学外で繋がった仲間とイベントを企画したり「やりたいことは何でもやってみよう」学生時代でした。授業も学部に関係なく興味を持った分野を受けることができ、学群だからこそその環境をたくさん活用させて頂いたと思っております。苦しいことや辛いこともありましたし、思い悩む時間も多かったと思います。しかし、先輩方、同期、後輩が色々なことを教えてくれたり支えてくれたり刺激をくれたりしました。そのおかげで乗り越えられたと思いますし、地創生で良かったなと思える学生生活になりました。



インターン先での活動の様子。大学生が高校生に授業をするという企画の運営を行っていた。写真は企画当日の気合い入れの円陣を組んでいるところ。この熱気は忘れられませんでした。

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

卒業後は就職はせず、フリーターとして法律事務や福祉系の事務の仕事をしておりましたが、社会人2年目にメンタルダウンし1年くらい人生を休んでいました。その後徐々に社会に復帰し、旦過の居酒屋さんで勤務、コロナ禍に人生初の正社員として湯灌納棺師の職に就きました。元々自分の浮き沈みをコントロールするのが苦手で、社会人になってみると孤独感が強くうまく生きられないと感じることが多かったです。しかし、旦過の居酒屋さん家族のあたたかさや段々とできてきた小倉の街での繋がりに支えられ、少しずつ自分との付き合い方のコツが掴めるようになっていきました。

初めて正社員として働いた湯灌納棺師の仕事では、体力的にもハードで慣れるまでは大変でしたが、その人の人生最期のお姿を整えるということに非常にやりがいを感じておりました。答えがないしやり直しがきかない仕事でしたので、あれでよかったのだろうか…と思うことも多々ありました。しかしそれが日々の成長意欲にもなっていましたし、奥の深い仕事で一生勉強だなと感じておりました。

そんなやりがいのある日々を送りつつ、何となく「いつか飲食店をしたいなあ」という思いが頭の片隅にあり、旦過市場の2度目の火災をきっかけに、それを行動に移すことになりました。葬儀の仕事に携わる中で「人間いつ何があるか分からない」と頭では分かっていたものの、実際に自分の身に降りかかって初めてその言葉を実感しました。だったら今やるしかない、と勢いで喫茶barを開業して今に至ります。

今後もやりたいことが渋滞しています。体が一つでは足りません。が、想いは一つです。ちょっと立ち止まって、また明日から歩き出す力を取り戻す。そんな場づくりをこれからも色々なジャンルで展開していけたらと思っております。

現役生へのメッセージ

大学生活はいかがですか？大学4年間というのは遊びも勉強も実習もバイトも、全てから学び吸収できる時期だと思います。やりたいと思ったことは何でもやってみてほしいなと思います。失敗とか成功とか関係なく、全てが経験値になります。やりたくないこともやってみると、意外な発見や気づきがあるかもしれません。実践して、振り返って、自分がどんな時に何を感じるのか、新たな自分を発掘して行って欲しいなと思います。

(2025年11月22日執筆)



勢いで開業した「喫茶bar Sui」。和のテイストで居心地の良い空間を作っています。お酒も国産のみで取り揃え、そのコンセプトや私の想いに共感してくださる方がご来店くださっています。